

Top Interview

トップインタビュー

上半期の業績について

当上半期は、古本市場事業におきましては、店舗改装や新規商材取扱い店舗の増加により売上拡大を図るとともに、業務効率化や店舗の賃料減額交渉等によるコスト削減を行いました。アイ・カフェ事業におきましては、季節ごとにフードやドリンクメニューの更新を行ったほか、コミックやネットゲームコンテンツを追加導入するなど顧客サービスの強化に取り組みました。EC事業におきましては、各種キャンペーンを通じて商材別のリサイクル品の廉価販売を行うなど販売活動に注力いたしました。

こうした結果、個人消費低迷の影響があったものの、連結売上高は190億4千7百万円（前年同期比3.6%減）とほぼ当初計画どおり着地することができました。一方利益面におきましては、利益率の高いリサイクル品の販売が堅調であったことに加え、広告宣伝費や人件費、賃料などの経費削減が順調に進み、連結営業利益は6億5千6百万円（前年同期比35.6%増）、連結経常利益は6億1千5百万円（前年同期比33.7%増）連結中間純利益は2億5千3百万円（前年同期比176.8%増）と、大幅な増益を達成することができました。

通期の見通し

連結売上高につきましては、雇用環境の厳しさに伴う個人消費低迷の影響はあるものの、上半期売上高がほぼ計画どおり推移したことを鑑み、416億円（当初の計画と同額）となる見込みであります。利益面につきましては上半期の業績を反映し、連結営業利益は当初計画比1億4千万円増の10億9千万円、連結経常利益は当初計画比1億4千万円増の10億2千万円、連結当期純利益は当初計画比1億円増の5億円を見込んでおります。

また、当社は9月1日に連結子会社の吸収合併を行いました。快適な時間と空間を時間制課金型で提供するインターネット・コミック・カフェの店舗運営を行う株式会社アイ・カフェと古本及び新品とリサイクル品のゲーム・CD・DVDの買取、販売をインターネットで行う株式会社ユーブックを当社と統合させることで、事業セグメント間のシナジーの最大化、本部機能の集約による効率化によりグループ全体の企業価値を高め、今後も「顧客価値の創造」という共通のコンセプトのもとに、事業運営を行ってまいります。



代表取締役社長
大橋 康宏

Topics

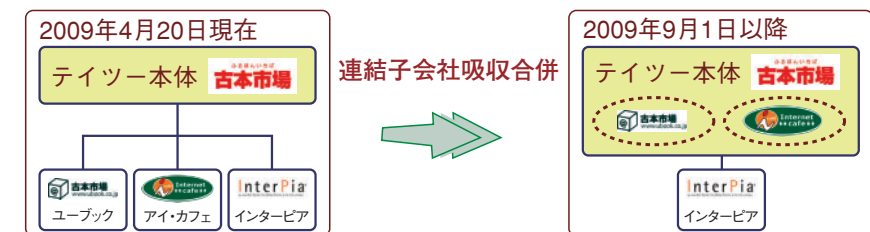
トピックス

連結子会社の吸収合併

当社は2009年9月1日をもって、連結子会社である株式会社アイ・カフェと株式会社ユーブックを吸収合併いたしました。

今回の吸収合併は、急速な環境の変化に対し、より一層グループ経営の戦略性と機動性を高めるとともに、経営資源の最適化や事業セグメント間のシナジーの最大化、本部機能の集約による効率化の追求を目的としております。

これにより、アイ・カフェ事業とEC事業の業績改善を図るとともに、当社グループの主力事業である古本市場事業を成長させることで、グループ全体の企業価値向上につながるものと考えております。



～当社グループ企業価値を高める～

経営資源の最適化

アイ・カフェ/EC事業の業績改善

新店出店 (古本市場、 Family Mart)



古本市場 高槻春日町店

当上半期には、古本市場高槻春日町店（大阪府）、新小岩店（東京都）の2店舗、Family Mart南千住八丁目店（東京都）の1店舗の計3店舗を出店し、引き続き店舗網の拡充及びドミナントエリアでのシェア拡大を図ってまいりました。

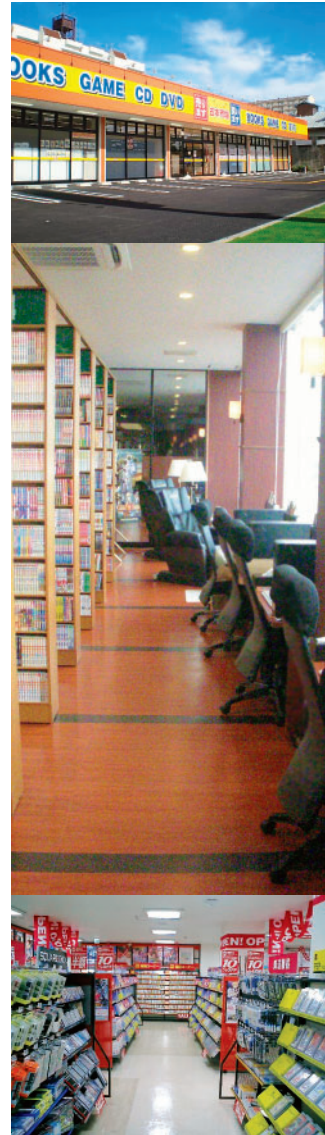
下半期にも古本市場は埼玉県春日部市、大阪府大阪市などへ出店を予定しており、今後もさらなる売上増加及び事業拡大に努めてまいります。



古本市場 新小岩店

Sales Activities

営業の概況



古本市場事業

古本市場事業におきましては、一部の店舗において大規模な店舗改装を行い店舗競争力の強化に努めたことにより、売上拡大を図ってまいりました。また、古本市場店舗向けの新しいPOSシステムを全店舗に導入し、店舗オペレーションの効率化を図るとともに、各種経費の削減により一定の成果を収めることができました。販促活動につきましては、夏のキャンペーンとして「スクラッチワールド」を実施し、夏の繁忙期の売上拡大に寄与いたしました。新規出店としては、古本市場を2店舗、Family Martを1店舗出店いたしました。

このような取組みを行った結果、厳しい経営環境ではありましたが、古本市場事業の売上高は174億3千4百万円（前年同期比3.0%減）とほぼ計画どおりになりました。一方営業利益につきましては、粗利額の増加や経費削減により、11億6百万円（前年同期比2.8%増）となりました。

アイ・カフェ事業

アイ・カフェ事業におきましては、季節限定のドリンク・フード類を充実させたほか、コミックスやネットゲームコンテンツの拡充を行うなど顧客サービスの強化に取組むと同時に、各種割引券を配布するなど販促活動に注力いたしました。

しかしながら、個人消費低迷の影響に加え、売上が最も見込める夏季における天候不順の影響により、当上半期におけるアイ・カフェ事業の売上高は14億7百万円（前年同期比10.2%減）となりました。一方利益の面では、業務の効率化により人件費等のコントロールに努めた結果、営業利益は3千5百万円（前上半期は営業損失5千8百万円）となり、黒字に転換いたしました。

EC事業

EC事業におきましては、期間限定で様々なキャンペーンを行い、古本・CD・DVDなどの廉価販売などを実施するとともに、特定期間中には通常より多くポイントを付与するなど販売強化に取組んでまいりました。

しかしながら、消費環境の悪化の影響等により、EC事業の売上高は2億3千4百万円（前年同期比10.3%減）、営業損失は1千3百万円（前上半期は営業利益7百万円）となりました。

こうした結果、当上半期の連結売上高は190億4千7百万円（前年同期比3.6%減）となりました。一方利益面におきましては、古本市場事業の増益及びアイ・カフェ事業の黒字転換等により、連結営業利益は6億5千6百万円（前年同期比35.6%増）、連結経常利益は6億1千5百万円（前年同期比33.7%増）、連結中間純利益は2億5千3百万円（前年同期比176.8%増）と、増益を達成することができました。

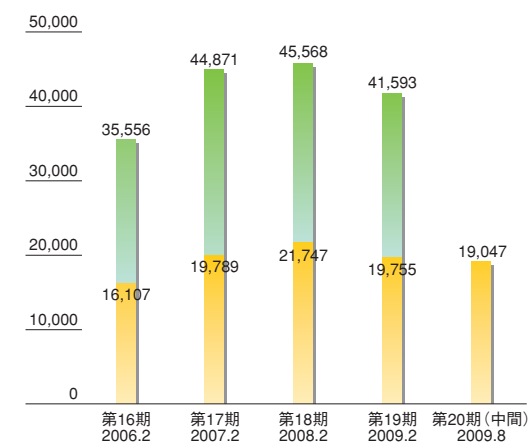
* 事業の種類別セグメント情報は7ページをご参照ください。

Financial Highlight

財務データ(連結)

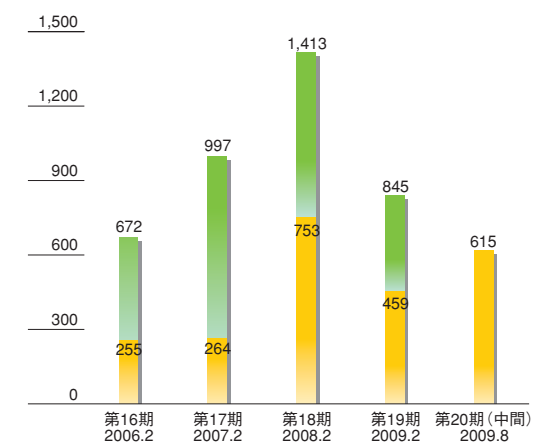
売上高

(百万円)



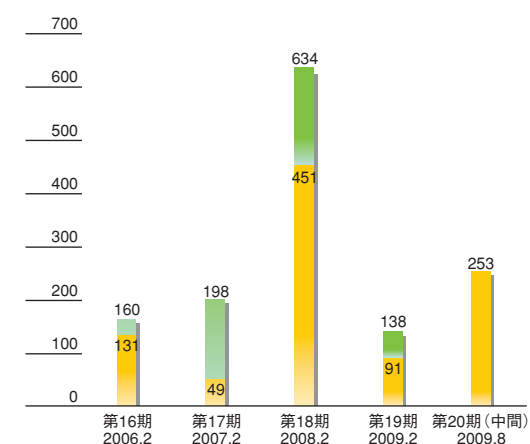
経常利益

(百万円)



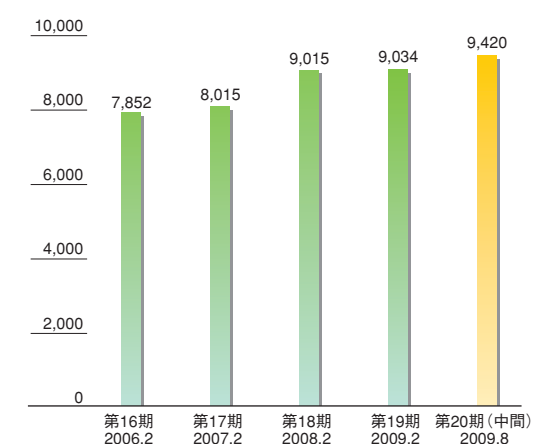
中間(当期)純利益

(百万円)



1株当たり純資産

(円)



Financial Data

中間連結貸借対照表(要約)

科 目	当中間期 (2009年8月31日現在)	前中間期 (2008年8月31日現在)	前 期 (2009年2月28日現在)
(資産の部)			
流動資産	6,113	6,038	6,072
現金及び預金	1,318	1,323	1,391
商 品	3,751	3,667	3,857
そ の 他	1,043	1,047	823
固定資産	5,534	5,347	5,254
有形固定資産	2,490	2,186	2,025
建物及び構築物	1,457	1,609	1,492
そ の 他	1,032	577	532
無形固定資産	290	328	335
の れ ん	26	54	40
そ の 他	264	274	295
投資その他の資産	2,754	2,831	2,893
差入保証金	1,549	1,635	1,637
そ の 他	1,204	1,195	1,255
資産合計	11,648	11,385	11,326

ポイント
解説
1

リース取引に関する会計基準の適用に伴い、リース資産、リース債務を計上しております。

(単位：百万円)

科 目	当中間期 (2009年8月31日現在)	前中間期 (2008年8月31日現在)	前 期 (2009年2月28日現在)
(負債の部)			
流動負債	4,364	4,550	4,095
買掛金	1,246	1,173	1,134
短期借入金	650	1,080	690
1年内返済予定長期借入金	893	913	972
そ の 他	1,575	1,383	1,298
固定負債	2,394	2,074	2,528
長期借入金	1,583	1,611	2,057
そ の 他	810	463	471
負債合計	6,758	6,625	6,623
(純資産の部)			
株主資本	4,723	4,553	4,534
資本金	1,165	1,165	1,165
資本剰余金	1,119	1,119	1,119
利益剰余金	2,810	2,640	2,621
自己株式	△372	△372	△372
評価・換算差額等	4	3	△0
新株予約権	25	13	20
少数株主持分	136	189	147
純資産合計	4,889	4,760	4,702
負債・純資産合計	11,648	11,385	11,326

ポイント
解説
2

利益確保及び借入返済により、自己資本比率が上昇しました。

中間連結損益計算書(要約)

(単位：百万円)

科 目	当中間期 (2009年3月1日から 2009年8月31日まで)	前中間期 (2008年3月1日から 2008年8月31日まで)	前 期 (2008年3月1日から 2009年2月28日まで)
売 上 高	19,047	19,755	41,593
売 上 原 価	13,747	14,519	31,045
売 上 総 利 益	5,300	5,235	10,547
販売費及び一般管理費	4,644	4,752	9,652
営 業 利 益	656	483	895
営業外収益	52	80	154
受取利息及び配当金	3	3	7
そ の 他	49	76	146
営業外費用	93	104	204
支 払 利 息	32	31	65
そ の 他	61	72	138
経 常 利 益	615	459	845
特 別 利 益	27	9	9
特 別 損 失	141	205	372
税金等調整前中間(当期)純利益	500	263	482
法人税、住民税及び事業税	258	149	361
法 人 税 等 調 整 額	-	-	1
少数株主利益又は損失	△11	22	△19
中 間 (当 期) 純 利 益	253	91	138

ポイント
解説
3

広告宣伝費、賃料などのコスト削減が順調に進みました。

Financial Data

事業の種類別セグメント情報

当中間期 (2009年3月1日から2009年8月31日まで)

(単位:百万円)

	古本市場事業	アイ・カフェ事業	EC事業	消去又は全社	連結
売上高					
外部顧客に対する売上高	17,432	1,405	209	—	19,047
セグメント間の内部売上高又は振替高	2	1	25	△ 29	—
計	17,434	1,407	234	△ 29	19,047
営業利益	1,106	35	△ 13	△ 471	656

前中間期 (2008年3月1日から2008年8月31日まで)

(単位:百万円)

	古本市場事業	アイ・カフェ事業	EC事業	消去又は全社	連結
売上高					
外部顧客に対する売上高	17,967	1,567	220	—	19,755
セグメント間の内部売上高又は振替高	2	0	41	△ 43	—
計	17,970	1,567	261	△ 43	19,755
営業費用	16,894	1,625	254	496	19,271
営業利益	1,075	△ 58	7	△ 540	483

ポイント
解説
4

施設原価や本部コストの削減により、アイ・カフェ事業は黒字に転換いたしました。

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	当中間期 (2009年3月1日から 2009年8月31日まで)	前中間期 (2008年3月1日から 2008年8月31日まで)	前 期 (2008年3月1日から 2009年2月28日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	906	△ 151	132
税金等調整前中間(当期)純利益	500	263	482
減価償却費	328	276	533
その他営業活動による増減額	111	△ 146	63
小計	939	393	1,078
法人税等の支払額	0	△ 516	△ 882
その他	△ 33	△ 28	△ 63
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 217	△ 286	△ 501
有形固定資産の取得・売却による収支	△ 145	△ 159	△ 305
無形固定資産の取得による収支	△ 85	△ 71	△ 102
差入保証金の差入・回収による収支	17	7	△ 26
その他	△ 4	△ 62	△ 67
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 761	573	622
短期借入金の純増減額	△ 40	290	△ 100
長期借入金の借入・返済による収支	△ 552	379	884
その他	△ 168	△ 96	△ 161
現金及び現金同等物の増減額	△ 72	135	253
現金及び現金同等物の期首残高	1,308	1,054	1,054
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	1,235	1,190	1,308

ポイント
解説
5

税金等調整前純利益の増加や法人税等の支払額の減少により、営業活動によるキャッシュ・フローは増加しました。

Stock Information

株式の状況/会社の概要

株式の状況 (2009年9月1日現在)

■ 発行可能株式総数	2,000,000株
■ 発行済株式の総数	551,400株
■ 株主数	5,913名

大株主

株主名	持株数	出資比率
有限会社ワイ・エイ・ケイ・コーポレーション	165,000 株	29.92 %
秋山良夫	23,238	4.21
株式会社山陰合同銀行	21,000	3.81
ティーツー従業員持株会	15,505	2.81
大橋康宏	10,549	1.91
株式会社中国銀行	10,483	1.90
東京海上日動火災保険株式会社	10,000	1.81
株式会社みずほ銀行	10,000	1.81
株式会社トマト銀行	8,000	1.45
株式会社アイシーピー	7,300	1.32

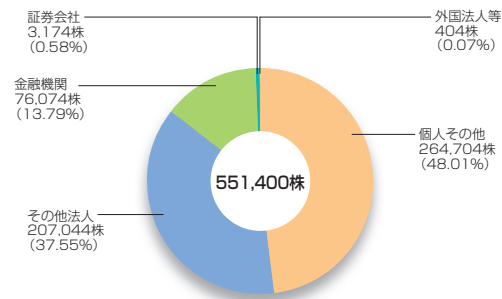
会社の概要 (2009年10月1日現在)

商号	株式会社ティーツー
英訳名	TAY TWO CO.,LTD.
店舗名	古本市場、ふる1、アイ・カフェ、ブック・スクウェア、Don Don Down on Wednesday、Family Mart
創業	1989年10月
設立	1990年4月
本社	岡山県岡山市北区今村650番111 TEL (086) 243-8600
東京本部	東京都港区芝公園二丁目4番1号 ダヴィンチ芝パークA館8F TEL (03) 5408-5100
代表者	代表取締役社長 大橋 康宏
*資本金	1,165,507千円
*従業員数	472名 パート・アルバイト1,661名

*主な事業内容

古本、TVゲームソフト・ハード、DVD、CD等の販売・買取
及びビデオレンタル業務、アイ・カフェ(インターネット・コミック・カフェ)の運営
(注) *はティーツーグループ全体に関する記載であります。

所有者別株式分布状況



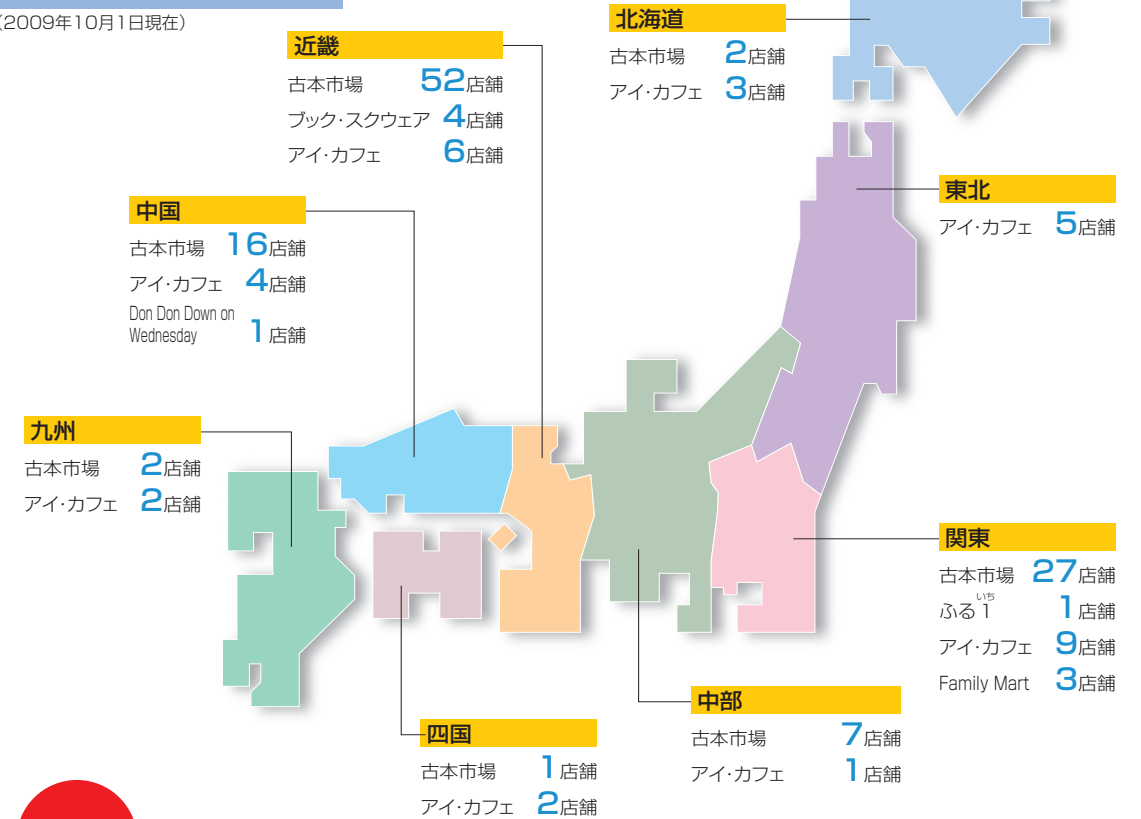
役員 (2009年10月1日現在)

代表取締役社長	大橋 康宏
取締役副社長	堀 久志
常務取締役	片山 靖浩
取締役	関本 慎治
取締役(社外)	寺田 勝宏
取締役(社外)	安田 育生
常勤監査役(社外)	吉田 就彦
常勤監査役(社外)	西川 豊
監査役(社外)	武田 由隆
監査役(社外)	平田 修之
監査役(社外)	岡本 博之

Network

ネットワーク

(2009年10月1日現在)



新店舗

古本市場

高槻春日町店	大阪府高槻市春日町15-17	2009年7月9日オープン
新小岩店	東京都葛飾区新小岩2-12-1	2009年7月9日オープン

Family Mart

南千住八丁目店	東京都荒川区南千住8-7-8	2009年7月30日オープン
---------	----------------	----------------

※各店舗の詳細につきましては、下記のURLをご参照ください。

<http://www.furu1.net/index.html>